

# 【ねがいはましては】

平成28年9月25日

KYOWA SCHOOL

第311号

「手書き」

あるサイトで興味深い記事を発見しました。

アメリカの教育心理学、幼児教育、心理学・脳科学などの専門分野の各教授が、「手書き」の効果について研究したものが紹介されていました。その中の記事を箇条書きに表します。

- a. 字がうまい子の提出物は、教師にとって読みやすいからいい点数をもらいやすい。
- b. まだ字がうまく書けない子は、文字をきちんと書くことに意識が集中してしまい、自分が書く内容に注意が向かない。
- c. 幼稚園に入る前の段階で、細かい手作業（微細運動能力）ができる子は、就学後の成績がいいことがわかった。
- d. 小さな子どもが書く文字は汚くて、筆跡は定まらないかもしれない。だが文字を書こうとすることが、物事を学ぶ助けになる。
- e. パソコンでノートを取る学生は、手書きでノートを取る学生よりも、内容をよく覚えていないし、理解も低い。

さらに具体的に説明している部分です。

きわめて重要なのは、視覚と言語が交わる領域である「紡錘状回」（ぼうすいじょうかい）、脳の下部両側にある部分で、視覚刺激を文字や書き言葉として認識する部分、この部分が発達することで脳全体の活性化が促される。普通成人は、文字を視野に入れることで、この部分が活性化することがわかっているそうです。

子どもの脳の発達にとって脳全体に十分な血流が促されることは、スポーツ選手が肉体を鍛えることと同様、脳内部の血流が常に栄養豊富な状態になるわけで、脳は大きくならなくても、脳全体の機能は、かなり向上することが予想されます。つまりスタートダッシュ可能な肉体同様、脳内部もスタートダッシュ可能になると考えられます。

まとめますと、幼児期、または脳が発達段階にある時期に、細かい手作業「手書き」をすることで文字への理解を進め、紡錘状回を発達させることは、成人と同じ脳内血流を早期に手に入れることが可能となる、ということのようです。

有酸素運動が体に良いとよく言われます。ある程度の早歩きをすることで、運動している部分は、下肢の大腿部以下が中心であるにもかかわらず、やがて汗が額から噴き出てくると似ているかもしれません。全身の血流が促され、体に良いというわけです。一部分だけを鍛えても、偏りが発生してしまうことになります。

興味深い内容がさらに続きます。ある教授は、小学校4年生ころからブロック体よりも筆記体のほうが、スペリングと作文の能力がアップすると言っています。日本だと楷書体ではなく草書体・・・これは少し飛躍しすぎかもしれませんが、平仮名で縦書きに手紙文字を書くようなものと考えた方がわかりやすいかもしれません。

それに似ているのが、学校でよく行われている連絡帳に書く先生からの一言・・・。詳しくはわかりませんが、先生方は結構手書きで縦書きが多いように感じます。さらに字が上手な方が多い・・・。子どもたちは返事を書くのかどうかわかりませんが、交換ノートなどを実践している先生方は、当を得た対応と言えるでしょう。

さて、ご家庭ではどのような実践が行われると・・・。

現代社会は、お母様が働いていらっしゃるご家庭がとても多くなっています。ひょっとすると、お子さんが学校へ行かれる前にご出勤という方もいらっしゃると思います。そんな時、お子さんとの間で交換ノートなどは最適かもしれません。縦書きで流れるようなお手紙・・・だんだん様になってくれば、子は自分の心の中に浮かんでくる感情をつぶさに文字変換することが可能になります。内容は学校であったこと職場であったこと、何でも結構です。常に心と心の会話が文字化されます。お母様が時折使われる大人びた表現は、やがて子へと伝わり、教科書で引用されていない語彙表現として蓄積、作文などで威力を発揮するかもしれません。

もっと良いことは、そのように常に家族とのコミュニケーションが文字で行われることは、将来社会へ旅立つであろう時の大切な基盤となることです。学校での成績だけを追い求める日々を過ごした結果、他人との触れあいから遠ざかり、成績は良くても他人との接触が苦手なままだと、社会順応はかなり厳しくなります。大切な他人への気配り、思いやりなど、学力よりも大切なものは全く培われぬまま成人を迎えることとなります。

幼少時からの「書写」などは、大切な脳発達の具体物かもしれません。もちろんそろばんもその一つになるのかもしれませんが。

文字を手に入れて、感情表現豊かなころを手にする。灰谷健次郎さんの本の中に、数々の子ども達の作品が登場します。その中の一つ。先生があまりにも心打つ詩であったため、赤ペンを入れなかった。その少年からの返事です。

ノート ノートあけたら 赤ペンがぜんぜんついていなかった 読んでみると「よごしたくなかったのです」という言葉が書いていた ぼくはその時 はん泣きになった よごすも よごさんも このノートは 先生のノートでもある んやで・・・

この少年の思いやりは、大人へ「気をつけっ」て言っているようです。ありがとう。